

第3回旭市総合戦略推進委員会（評価）

議事録【要約】

開催日時：令和元年10月31日（金）10：00～11：57
開催場所：旭市役所本庁舎3階

○ 出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	飯田 正信 委員	出	石毛 直夫 委員	出
石毛 みさと 委員	出	石見 千賀子 委員	出	伊原 敬道 委員	出
小川 光雄 委員	出	城之内 和義 委員	出	板谷 敬二 委員	出
田邊 波津枝 委員	出	平野 晃久 委員	出	古橋 志雄 委員	出
柳 明美 委員	出	芳野 守 委員	出	伊藤 慎吾 委員	欠

《事務局》

旭市企画政策課：小倉課長、柴副課長、林班長、林、醍醐、川瀬

○ 資料

- 資料1-1 重点施策マネジメントシート「地産振興プロジェクト」
- 資料1-2 重点施策マネジメントシート「子宝育成プロジェクト」
- 資料1-3 重点施策マネジメントシート「故郷創出プロジェクト」
- 資料1-4 重点施策マネジメントシート「安心形成プロジェクト」
- 資料1-5 重点施策マネジメントシート「旭市生涯活躍のまち構想」
- 資料2 地方創生推進交付金事業の効果検証について
- 資料3 基本施策評価シート

○ 会議内容（要約）

1 開会

事務局 配布資料の確認、委員の出欠席等。

2 説明及び評価

委員長 委員長挨拶。
事務局からの説明を。

事務局 会議の主旨について説明。

委員長 意見のとりまとめについて事務局一任の確認をしたい。
(異議なし)

事務局 重点施策マネジメントシートの構成について説明。
資料 1-1 に沿って地産振興プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。

委員長 質疑・意見を。

委員 旭市職業相談室の資料で気がついた点。指標の部分に「就業率」との表現があるが、行政のほうでは就業率とは言わない、紹介率と言う。
数値の小数点以下の桁を合わせてほしい。
「就職率」は「就業率」の間違いである。
参考としてご紹介するが、紹介率 34.1%はとても高い数字。千葉労働局全体では昨年度は 19.93%、ハローワーク銚子では 34.4%であった。

委員長 用語の統一、数字、具体的なご指摘を頂いたので、よろしく願います。
質疑・意見を。

委員 道の駅の来場者、売上などは、他の道の駅と比べてどうなのか。

来場者の市内市外の内訳はどのような割合になっているのか。
今後、キャッシュレス化してはどうか。
旭市の推奨品は誰がどうかたちで認定するのか。
成田地区が非常に発展している、協働して旭市を盛り上げたらどうか。

事務局 道の駅の規模からして、115 万人の来場者数は多いといえる。道の駅さわらは 100 万人以下なので、これと比較しても多い。把握する手段がないため、来場者がどこから来ているかわからないが、車のナンバーを見ると、約 9 割は市内と隣接市からと推察する。
キャッシュレス化の検討はしているが、もう少し様子を見ようとの結論。検討は進めていくが、今のところすぐに導入することはない。
推奨品は、外部の組織である認定委員会の会議で決定する。

委員 法人の開設件数はどこから引っ張ってきたデータなのか。

事務局 税務課に法人税の届出があった件数と認識している。

委員 開設数の数字が伸びていて順調に見えるが、商工会の会員数は実際に減っている。高齢化が進み、全国で中小企業の 1/3 の 100 万社が廃業を迎えるといわれている。開設数だけを見て順調と言いつ切るのはどうなのか。次年度の施策や方針には、商工会との連携を取って問題意識を持って取り組むという表記も必要ではないか。

事務局 当初、開く会社も辞める会社もあることは議論となった。しかし、開いてもらわなくては話にならない、まずは旭市で開いてもらうことを目標に進めていこうと、開設法人を数値目標とした。今後、数値目標の新たな見直しが必要か、このまま継続してやっていくか、担当課と協議しながら進めていく。

事務局 資料 1-2 に沿って子宝育成プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。

委員長	質疑・意見を。
委員	地域子ども教室というのはどこの主催でアクアキャッチャーはどこの学校で行われたのか。いろいろな内容があるのか。
委員長	すぐ回答が出ないようなので、事務局に後で調べていただくことにする。 質疑・意見を。
委員	10月からスタートした幼児保育無償化にあたり、待機児童は出たのか。 希望したが放課後児童クラブに入れなかったという児童はいるのか。
事務局	保育所の待機児童はゼロで、むしろ保育所が多すぎるのではというくらいの状況。 放課後児童クラブを希望している児童は全員受け入れている状況。
委員	学童クラブは1～3年生対象だが、4～6年生への実施はないのか。 0～6歳幼児への支援は充実しているが、小学校以降、たとえば給食費が第1子から援助される等、大きくなってからも支援が続くような対策・案はないのか。
事務局	前日も委員より、4年生以上の小学生を預けられる場所があると良いというご意見があったので、担当課である学校教育課に伝えた。担当課の回答としては、「現状では、4年生以上の児童については、空き教室等の実施場所や支援員の確保など、受け入れ態勢を整えることが難しいと考える。夏休みなどの長期休暇のときは、その期間のみの入所を受け入れている。」と回答があった。
委員	今年の夏に、4年生の児童の入所が断られ、教育委員会等にも掛け合ったがどうしても認められず、両親が交代で休暇を取り子どもをみていたというお宅があった。

委員	三川小学校の学童クラブでは、空きと希望があれば4年生から6年生も引き続き入所できると聞いている。
事務局	頂いたご意見は担当課に伝える。その意見に対する担当課の考えをお聞きしてHP上で公表する。
委員	市内の小中学校のトイレの水洗化率、エアコンの設置率が、全国平均や県内平均に比べて旭市はどうか、次回までに教えていただきたい。
委員長	国土強靱化でいろいろと追加の国の予算ができてきているようなので、推進される側になると思う。
事務局	トイレの水洗化率は100%、エアコンの件は昨年度に計画を立てて、今年度にすべて設置することとなった。
委員	幼保無償化になり保育士の増員も必要になるが、確保できているのか。また、保育士の結婚・出産・病気などに対応する人員の確保はどうか。
事務局	保育士が産休・育休を取る際は、産休代替保育士として登録されている中から担当してもらおう体制を取っているはず。 保育士の確保については、年齢によって保育士の定数が決まっており、正規の保育士では足りず臨時で募集し、現在は定数に足りている。
委員	お願いだが、学童クラブや保育士の確保など、その都度柔軟に考えていくことは大切。同時に、市内全体を見渡し、地域で不公平感が無いように、ぜひ慎重に考えて頂きたい。
事務局	資料1-3に沿って故郷創出プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。
委員長	質疑・意見を。

委員	コミュニティバスの件、イベントがあるときなど、車で来る人たちは良いが、電車で来る人たちの交通が不便なので、コミュニティバスを使えないか。
事務局	コミュニティバスは路線バスであり、そのイベントの日だけ路線を変えて臨時運行するのは無理がある。しかし、旭市では市バスを2台保有しており、産業祭などのように臨時シャトルバスとして活用するという方法も考えられるので、担当課に伝える。
委員	来年度から乗り合いタクシーの導入を検討してほしい。山武市が乗り合いタクシーを導入しており、高齢者の移動手段としても評判が良い。 また、人口社会増減数の中に、数年で出て行ってしまう外国人技能実習生が含まれており、実態が見えにくい。 数字には含めない、または含めるなら実習生の人数を示すなどしてほしい。
事務局	今年度中に乗り合いタクシーの導入が始まる予定。料金は500円で決定している。
委員	旭市の人口の状態を、HPや広報誌以外で表に出る形で掲示する場合はどのくらいあるのか。
事務局	HPや月一回の広報の他では、市役所やいくつかの公共施設で掲示している。
委員	旭市の人口減の現状をもっと大々的に知らせるべき。駅のような目立つ場所にもあえて掲示し注目してもらい、市民に危機の意識を持ってもらうことにつなげたほうが良い。
事務局	昨年度、初めて旭市の出生数が400を切った。市内の小学校10校で平均すると、全校が1クラスになってしまうという危機である。この危機感を前面に出していくのは非常にいいアイデアなので参考にする。

-
- 委員** 道の駅だが、これだけ実績があるのなら、市内や近隣の人だけでなく、もっと都心部の人を呼び込むように出来ないか。フリーマーケットをしているスペースで、旭のお米をお釜で炊いておにぎりを作るなど、農産物や米作りに関して、都市部の人や移住者に向けて目を引くような発信が出来ると良い。
- 事務局** 資料 1-4 に沿って安心形成プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。
- 委員長** 質疑・意見を。
- 委員** 津波に対する防災も大切だが、今年千葉県を襲った台風の被害は大きかった。津波の際の浸水マップは探せたが、大雨の時の浸水地域、河川の周囲の危険区域がわからなかった。今後は台風発生の確率も上がってくると思う、津波以外の防災のあり方はどうなっているのか。
- 事務局** 今回、次期の総合戦略の計画と同時に、国土強靱化地域計画の改訂も同時に進めようとしている。
現在の地域計画は東日本大震災を受けての計画だったので、地震や津波に偏っている。今回の台風の被害を受けて、そういった視点も十分に盛り込もうと思っている。
- 委員** 自主防災組織と地域の消防団とはまったく別の組織なのか。
現在、消防団は参加者の確保が難しい。ぜひ、自主防災組織と消防本部、消防団が一緒になって、地域の防災組織を維持できればよいと思う。
- 事務局** 資料 1-5 に沿って旭市生涯活躍のまち構想の重点施策マネジメントシートを説明。
- 委員長** 質疑・意見を。
-

委員

移住、定住についてだが、HP で、旭は交通が不便だという自虐的な内容が目についた。東京から旭に移住しようと考えている人は、忙しい生活や通勤のストレスが嫌で旭に来るのであり、交通の利便性を求めてはおらず、そんなことは全く言う必要がない。旭中央病院があって医療が充実しているとか、子育て世帯ならばスポーツ広場や公園、あるいは海があって海水浴やサーフィン、夏は七夕祭り、そういうことを載せていただきたい。交通のことをあえて言うのなら、東京に行くとなればいつでも高速バスが通っている、くらいの記述で十分なので、ぜひ HP の記載を見直してほしい。

また、第一回の会議でも申し上げたが、移住しようとする人はまず住まいと仕事の情報が欲しい。ぜひ市のほうでサイトを開設して頂き、移住しようとする人が様々なページを探さなくて済むように、空き家と仕事の情報を一元的に提供できるように、来年度以降に実施してほしい。

委員

人口では外国人が増えている、でも全体では減っているとのことだが、法人の開設数で考えても、農家が法人化し外国人労働者を雇用しているためだと思われる。スキルの高い日本人をブレンとして雇用したい経営者は多いが、人材がない。移住含めて、この地域で経営に携わって農業を始める若者を募集するのはとても大事。外国人がずっと来てくれればいいが、突然来なくなった場合、旭の農業はどうなってしまうのか、そういったシミュレーションをしていくことは大事である。

委員

南房総市は、市と農協で「農業支援センター」というのをつくり、新規就農を含む、研修の2年間と就農で3年間の通算5年間を、市のほうで積極的に支援している。研修用の施設も建てて新規就農者を募集しており、このような南房総市の取組みをぜひとも旭も取り入れて検討してほしい。

委員長

このように前の資料に戻っての質問も受け付ける。また何かあったら事務局にお伝えいただければと思う。

事務局

基本施策評価シートの説明

次回の日程は12月13日金曜日、午前10時、南分館の3階で予定している。第2次旭市総合戦略の素案をお見せできるよう準備をしている。

委員長

皆様よろしいか。

それでは、これにて会議を終了する。

【閉会 午前11時57分】
